

指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたかく

3月号 令和5年3月1日 第11号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX048-624-2200

【児童数】男子 429名 女子 443名 計 872名

ありがとうのバトン ～卒業進学・進級の心得～

校長 引間 陽子

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応が続く中、「学びを止めない」を合言葉に工夫を凝らしながら、数々の行事や取組が再開できた1年だと思えます。

先月の10日には、第5学年の社会科見学を行うことができ、全学年の各校外学習の実施が叶いました。5年生は、首都圏外郭放水路と武州中島紺屋の見学を通して、洪水を防ぐための世界最大級の地下施設の壮さに圧倒されたり、天保8年伊勢から羽生市に渡った伝統工業の染め物体験をしたり、貴重な経験となりました。

卒業の近づくこの時期には、子どもたちの活躍が光る2つの行事がありました。どちらも「ありがとう」のバトンが渡され、双方の感謝と成長が伝わり、温かい気持ちが溢れました。

まずは、『親善お別れ球技会』です。5年生が企画から、準備、本番と全てを任された大会でしたが、全力で大会を運営し、6年生の思い出となる会を成功させました。5年生からは「6年生が始まろうとする開会式を静かに待つ姿がかっこいいと思った」「6年生のいいところをお手本にしたい」「団結力を高め、何事にも全力でチャレンジできるような6年生になりたい」などの声が聞かれました。6年生からは後を託すぞという熱い思いのバトンが渡されました。

また、『卒業おめでとう集会』では急遽オンラインでの開催となったものの、どの学年も創意工夫満載の出し物を披露し、6年生に感謝の思いを伝えました。堂々と司会をする姿、生き生きと歌を歌う姿、大きな声でメッセージを贈る姿、どの部分を切り取っても子どもたちが大きく成長した姿を見て取ることができました。最高学年としての優しくて逞しい6年生にみんなで「ありがとう」の気持ちを贈ることができました。6年生からは下級生に「協力・思いやり・考動・努力・挑戦・颯爽」という言葉のバトンを託されました。

6年生の卒業と進学、1年生から5年生までの進級に寄せて思うことは「一期一会」です。茶道に由来し、どの茶会でもその機会は二度と繰り返されることがなく、生涯に一度しかない出会いであると心得をもち、主客に誠意をつくすべきであるという心構えを説いた言葉です。「今日という日は二度と繰り返されない。今の自分が感じることを大切にする。今の出来事をいつか冷静に振り返ることができた時、新たな気づきが自分の中に生まれてくるのではないか」と思えます。経験を通して得たことを自分の糧にして次のステージへ大きくジャンプしてほしい、子どもたちの1年の頑張りに感謝して「ありがとう」とエールを贈りたいです。

1年間、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動を御理解いただき、御協力、御支援いただきましたことに感謝いたします。誠にありがとうございました。

親善お別れ球技会



5年生にバトンを渡します。

卒業おめでとう集会



下級生にバトンを渡します。